



平成 28 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 : 富士石油株式会社
代表者名 : 取締役社長 柴生田 敦夫
(コード番号 : 5017 東証第一部)
問合せ先 : 総務部 IR・広報グループ 篠内 清人
TEL : (03) 5462-7803
URL : <http://www.foc.co.jp/>

業績予想ならびに配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 28 年 3 月期通期連結業績予想ならびに 1 株当たり配当予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 28 年 3 月期通期連結業績予想 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (平成 27 年 11 月 10 日発表)	467,000	3,100	4,100	3,700	48.01
今回修正予想 (B)	433,000	△7,000	△6,700	△7,100	△92.13
増減額 (B - A)	△34,000	△10,100	△10,800	△10,800	
増減率 (%)	△7.3	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期)	666,179	△20,327	△18,624	△18,109	△234.99

修正の理由

前回予想 (平成 27 年 11 月 10 日発表) 以降の原油価格及び為替レートの変動等を勘案し、通期の業績予想を修正いたします。

今回の修正見通しでは、原油価格 (ドバイ原油) を第 4 四半期平均 30 ドル/バレル (前回予想同 50 ドル/バレル)、為替レートを第 4 四半期平均 120 円/ドル (前回予想同 122.5 円/ドル) といたしました。

売上高は、原油価格の大幅な下落等により、前回予想比 340 億円減収の 4,330 億円となる見通しです。

損益につきましては、原油価格の下落に伴う在庫影響 (総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響) の悪化等により、営業損失 70 億円 (前回予想比 101 億円減益)、経常損失 67 億円 (同 108 億円減益)、親会社株主に帰属する当期純損失 71 億円 (同 108 億円減益) と前回予想比で大幅な減益となる見通しです。

なお、在庫影響を除いた実質ベースの損益は前回予想から大きな変動はなく、営業利益相当額は52億円（前回予想比4億円増益）、経常利益相当額は55億円（同3億円減益）となる見通しです。

【在庫影響（※）及び在庫影響を除いた利益相当額（通期）】

（単位：億円）

	前回予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)
在庫影響	△17	△122	△105
在庫影響を除いた 営業利益相当額	48	52	4
在庫影響を除いた 経常利益相当額	58	55	△3

※総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

2. 配当予想の修正について

	年間配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭
前 回 予 想 (平成27年5月12日発表)		6.00	6.00
今 回 修 正 予 想		未定	未定
当 期 実 績	0.00		
前 期 実 績 (平成27年3月期)	0.00	3.00	3.00

修正の理由

当社は、株主各位への利益還元を重要な経営課題のひとつと考えており、中長期的な事業発展のための内部留保の充実に留意しつつ、業績及び資金バランス等を勘案の上、安定的な配当の継続に努めることを基本方針としています。

しかしながら、当期の業績は上記業績予想修正のとおり、大幅な下方修正が見込まれること、他方でこの先の原油価格の動向は著しく不透明であり、原油価格の動向次第で業績も大幅に変動する可能性があること等を勘案し、当期末配当予想につきましては前回予想（平成27年5月12日発表）の1株当たり6円から未定とし、最終的には当期及び今後の業績動向等を総合的に勘案の上決定することといたします。

（注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいております。実際の業績は、様々な要因により予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以 上